

《冬菜》

4ス 冬菜漬うまくなる頃には戻る ぼんだ
読者に色々想像させる句であると思いました。(草蛙)

9 家々をつないで冬菜畑かな くるみ
家と家が隣というのでなく、冬菜畑を間に家が繋がっているところに。(英花)

1 早退のひとりで帰る冬菜畠 克憲
中学の頃、頭痛か何かで早退したあの甘苦い気持を思い出す。(遥子)

《口》

6ス お汁粉と火鉢と樋口一葉と 山音
冬のひとときを感じさせる並び。(あかり)

1ス 夜鴨鳴くつと肩口のさみしかり とちおとめ
思わず寒さを感じました。特選。(雀)

3ス 口切のはなやいでゐる厨かな きさ
厳粛な茶席でも裏方はウキウキ。この通りですね。(みちこ)

《自由》

2ス 犬と猫仲良く冬に入りにつけり 葵
平明でストレートで好感が持てる。(くるみ)

2 黄落やけふの自分を演じきる 千津子
黄落がいいですね。毎日が人生劇場であるというメッセージに共感。(潤一)

4 ふたりには過ぎたる白菜と思ふ 美紀
半分でも四半分でも二人暮らしには白菜は大きい。(ぼんだ)